

## 上京区役所の発掘調査 — 上京遺跡・室町殿跡 —

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 小檜山一良

### はじめに

京都市上京区今出川通室町西入掘出シ町所在の上京区役所の敷地内で発掘調査を 2013（平成 24）年に実施しました。この場所は平安京の北に位置しており、室町時代の上京遺跡および室町殿跡にあたっています。

### 1 上京区役所敷地内の発掘調査

上京区役所を上京区総合庁舎として建て替える計画がされたため、京都市文化市民局地域自治推進室総合庁舎整備係の委託を受け、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導の下、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施しました。調査の期間は 2013 年 4 月 1 日から 7 月 19 日まで、今出川通沿いと北側の 2 箇所の調査区を設けて行いました。調査面積は合わせて約 590 m<sup>2</sup>でした。

### 2 位置と環境（図 1）

調査地は平安京一条大路から 3 町分（約 360 m）北に位置しています。上京遺跡は、禁裏がほぼ現在の京都御所に固定された室町時代に、将軍家や公家の屋敷・寺院などが平安京の枠を超えてその北方に造られ、形成された市街地のことです。遺跡範囲は、おおよそ北は鞍馬口通、南は一条通、東は寺町通、西は智恵光院通まで広がっています。室町殿跡は、1381 年（永徳元年）足利義満によって造営された邸宅で、室町通に面していたことからその通り名をとって室町殿と呼ばれ、また、花の御所とも呼ばれました。発掘調査では、庭石を配した園池の一部・柱穴・土坑・溝などが発見されています。今回の調査地は、室町殿跡が面したという室町通から 1 町（約 120 m）西に位置しています。遺跡地図台帳では室町殿跡に推定されていましたが、近年、室町殿跡は烏丸通から室町通までとされ、室町通から西側は上京遺跡となっています。

調査地周辺の遺跡には、約 120 m 東に室町殿、その北東には室町時代の寺院跡である相国寺旧境内が広がり、下層からは旧石器時代の細石核が出土しています。また、重複して飛鳥時代の竪穴住居が検出された上御霊遺跡や、上御霊神社内には飛鳥時代から平安時代の出雲寺跡があります。調査地の東には、ほぼ京都御苑を範囲とする公家町遺跡があります。さらに、調査地の約 120 m 西には、室町時代の平城跡である本満寺の構え跡、約 180 m 北西には、室町時代の邸宅跡とされる新町校地遺跡があり、同志社大学の発掘調査で室町時代の溝・土坑などを検出しています。約 200 m 南には、平安京北側に隣接して鎌倉時代から室町時代的一条室町殿跡があります。これは 13 世紀中頃に造営された九条実経の邸宅で、16 世紀前半に一条家の所有となります。また、約 360 m 南西には平安京の北側

に隣接して平安時代の革堂跡（行願寺）があります。比叡山の聖・行円が 1004 年（寛弘元年）に建立しました。さらに、約 500 m 北西には茶道家元として知られる不審庵（表千家）庭園、今日庵（裏千家）庭園、約 200 m 南西には官休庵（武者小路千家）庭園、約 200 m 北東には大聖寺庭園があります。また、約 300 m 南には弥生時代の遺物散布地の内膳町遺跡があります。

このように、周囲には弥生時代から江戸時代までの遺跡があります。

また、江戸時代の絵図によると、今回の調査地の南半部は町屋が並び、北半部は武家屋敷地であった事が分かりました。また、北側には伏見奉行や作事奉行を任せられた小堀遠州の屋敷地があります。

### 3 周辺の既往調査（図 3、表 1）

調査地周辺では発掘調査によって、礎石建物、石敷き遺構、溝、路面、庭園の石組遺構や池の汀・庭石など、室町時代の遺構が多く検出されています。また、江戸時代の各種の遺構も検出されています。

調査 1 は、2002 年の同志社大学寒梅館の調査で、鎌倉時代後半の井戸、鎌倉時代から南北朝時代の東西溝、室町時代の石敷遺構・石組水路・柱穴列・建物基礎、江戸時代の遺構を検出しました。調査 2（図 4）は、2002 年の民家建替えの調査で、室町時代の庭園の石組遺構・礎敷遺構・土坑・庭石などを検出しました。調査 3（図 5）は、1985 年のマンション建設の調査で、室町時代の池の汀・庭石などを検出しました。調査 4（図 6）は、1989 年のマンション建設の調査で、室町時代の石組遺構・溝・築山・景石、江戸時代前期の建物跡・石敷遺構・石組遺構・溝・土坑を検出しました。調査 5（図 7）は、1979 年の地下鉄烏丸線の換気ビル建設の調査で、室町時代の池状遺構・土坑・落込み、江戸時代の井戸・土坑・ピット・落込みを検出しました。調査 8（図 10）は、1989 年のマンション建設の調査で、平安時代末期から鎌倉時代の土坑、室町時代の東西溝・土坑、江戸時代の土坑などを検出しました。

上京区役所の敷地内では、過去に 2 度の発掘調査が行われています。

調査 6（図 8）は、鎌倉時代の井戸、室町時代の柱穴・土坑・溝などを検出しました。調査 7（図 9）では、江戸時代の井戸・石室・土坑を検出しました。

今回の調査（図 11～13）では、江戸時代の中期以降の石室や井戸、攪乱土坑が多く、また、江戸時代初頭の大規模な廃棄土坑を多く検出しました。そのため、それ以前の遺構の残存状況は悪く、建物などの復元はできませんでした。

### 4 調査の概要

#### 第 3 面（鎌倉時代～室町時代前期）の遺構（図 11）

1 区では布掘り柱列 1（柱穴 241・244・252）、柱列 2（柱穴 210・212・256・235）、土坑 219・231 などがあります。土坑からは室町時代のまとまった遺物が出土しました。また、土坑 159 下層、土坑 257・259、柱穴 260 から鎌倉時代の遺物が出土しました。柱穴 260 は調査区壁面で検出したもので礎石があります。鎌倉時代の遺物が出土しました。

2区では土坑109・112・113・115、柱穴107・110・111・116～119・121～128などがあります。柱穴121は0.2×0.3mの礎石があります。残存状況が悪いため、建物は復元できませんでした。遺物は少なく小片のため、時期は不明です。

#### 第2面（室町時代後期）の遺構（図12）

1区では土坑143・152・159・160・176、柱穴38・39、石室24があります。土坑159・160・176は、やや大型です。特に、土坑176からは大量の土師器皿が出土しました。また、柱列2（柱穴73・76・101）は、0.8m間隔で並び、柱列1（柱穴134・137・139）とともに、南北方向に並びます。柱穴38・39には柱の痕跡があり、柱穴39には底部に根石があります。後世の攪乱のため建物は復元できませんでした。石室24は東西1.2m、南北1.5m、深さ0.35m残存していました。西と南側、上部は削平されていました。

2区では数基の土坑と溝37・38などがあります。溝37は幅約1.3m、深さ約0.5m、溝38は幅1～1.5m、深さ約1.0m、どちらも南北約4.5mあり、調査区外の南北方向に続きます。上部が削平されているため、新旧関係は不明です。

#### 第1面（江戸時代前期）の遺構（図13）

1区では土坑12・60・65・113・115・120・127・129・130・146などがあります。規模は一辺1～5m、深さ0.8～2.5mあります。土坑からは大量の炭・焼土・焼けた壁土、土師器皿とともに多量の陶磁器類が出土しました。

2区では土坑2・13・26・57などがあります。土坑2は一辺3m以上あり、調査区外に続きます。深さは東肩部分から約3.3mあります。土坑からは大量の炭・焼土、土師器皿とともに、多くの陶磁器類が出土しました。土坑の上には多量の瓦を含む整地層があり、上層からは江戸時代中期の土師器皿が出土しました。江戸時代前期に掘削し半ば埋立てしたのち、江戸時代中期に全て埋め立て、整地したと考えられます。土坑13・26・57は一辺1～4m、深さ0.3～0.4mあります。

## 5 遺物の概要

出土遺物は整理箱に200箱出土しました。土器類・瓦類・木器類・金属類・石製品・骨・貝類などです。

**平安時代の遺物** 土師器皿・高杯、緑釉陶器、須恵器杯・甕、灰釉陶器甕、瓦などがあり、小片が多い。これらは各遺構や整地層から混入した状態で出土しています。

**鎌倉時代の遺物** 土師器皿、瓦器椀・鍋、青磁椀があります。主に1区の土坑159・231・259、柱穴260から出土しました。また、その他の遺構に混入して出土しました。

**室町時代前期の遺物** 土師器皿、瓦器椀・釜、施釉陶器皿・鉢、焼締陶器鉢、青磁椀、瓦があります。主に1区土坑219・231などから出土しました。

**室町時代後期の遺物** 土師器皿、瓦器鍋・鉢・火鉢、施釉陶器皿・甕、焼締陶器甕、染付椀、青磁椀、

瓦があります。1区の土坑143・159・160・176、石室24、2区の溝37・38などから出土しています。

**江戸時代前期の遺物**（図14、表2） 土師器皿・鉢・甕・塩壺・焙烙、瓦器鉢・火鉢・鍋、施釉陶器椀・皿・壺・茶入、水指、焼締陶器挿鉢・盤、輸入陶磁器、瓦、骨・貝類、金属製品、石製品、木製品、焼け壁土、炭化物などがあります。土師器皿は江戸時代初頭のもので、土器の編年表では京都XI期中段階（1600～1630年）に該当します。施釉陶器・焼締陶器の産地は、京都、信楽、瀬戸・美濃、丹波、備前、唐津、高取のものがあります。また、輸入品には中国赤絵椀・染付椀、朝鮮白磁皿、ベトナム染付椀などがあります。骨・貝類には鳥・牛・魚類の骨、二枚貝・巻き貝など、金属製品には銭貨・キセル・銅線・鉄釘など、石製品には砥石・硯など、木製品には箸・漆器椀・板材などがあります。火災処理土坑である1区の土坑12・60・65・113・115・127、2区の土坑2などから多くが出土しました。そのほかに江戸時代中期以降の遺構や盛土から出土しました。

#### まとめ

今回の調査では、少数ですが、鎌倉時代の遺構を検出しました。土坑159下層遺構は井戸であったと考えられます。この約5m北に鎌倉時代と考えられる礎石のある柱穴260、南東約9mの土坑257があることなどから、上京遺跡以前に生活の場があったことを示しています。

また、室町時代前期には、1区で土坑と柱穴や柱列3を検出しており、後世の攪乱で建物は復元できませんでしたが、町割りの輪郭が浮かんできます。

室町時代後期には、1区で土師器皿を多量に含む土坑を数基検出しました。また、南北の柱列や柱根のある複数の柱穴があります。2区では室町時代後期の南北溝を2条検出しており、中世の構えに関連する堀である可能性がみえます。後世の攪乱で建物等は復元できませんでしたが、大量に土器を消費する人々の生活の場があり、区画する溝や柱列があることから、中世上京遺跡に関連する町屋の存在が考えられます。

江戸時代前期の遺構には大きな火災処理土坑が多くあります。出土した土器の年代観から1620年（元和6年）の大火に伴うものと考えられます。その1620年の大火から約30年後の絵図「中井家旧蔵『洛中絵図』（京都大学附属図書館蔵：1645～1659年頃）」を現在の地図に重ねると（図1）、1区は通りに面した町屋の並び、2区は旧今出川通から通路のある長谷川半兵衛宅の中に位置する事が分かります。また、調査地は、西側は現在の新町通、南側は旧今出川通（北小路）、東側は衣棚通に囲まれています。各通りから奥まった場所に位置することがわかります。このことから、通りに面した建物の裏手にあたる空地に、火災後の処理土坑がたくさん掘削されたと考えられます。ただ、2区の土坑2の中層に大量に混入する炭は建材の炭でなく、稲藁の炭であること、また、幾層にも分かれて堆積していることから、当初は火災処理土坑でしたが、埋めきれず、凹地をゴミ穴として利用したと考えられます。

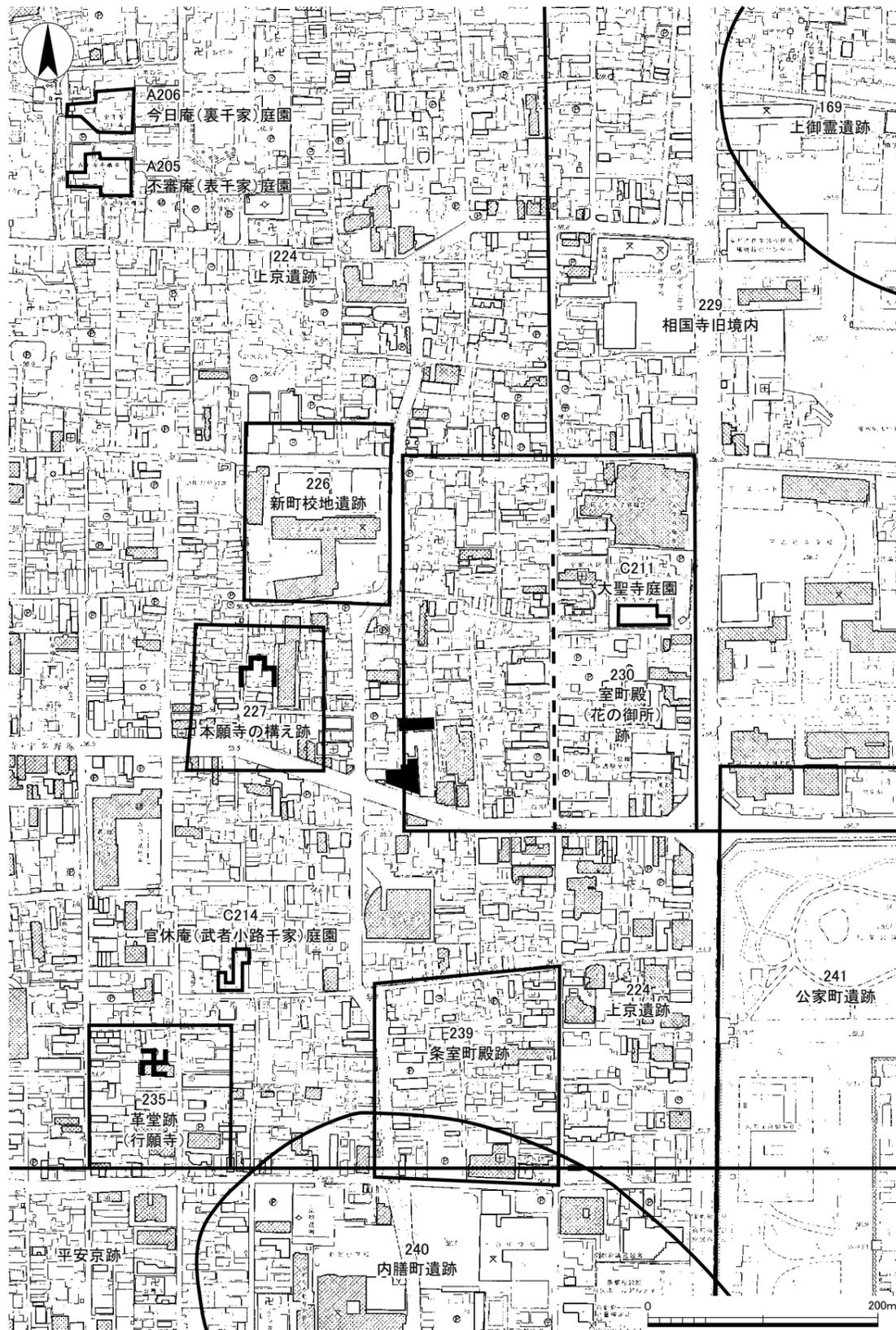


図1 周辺遺跡及び調査位置図 (1:5,000)

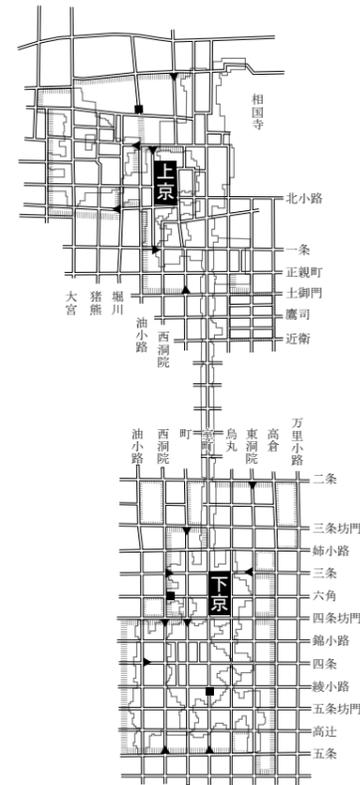
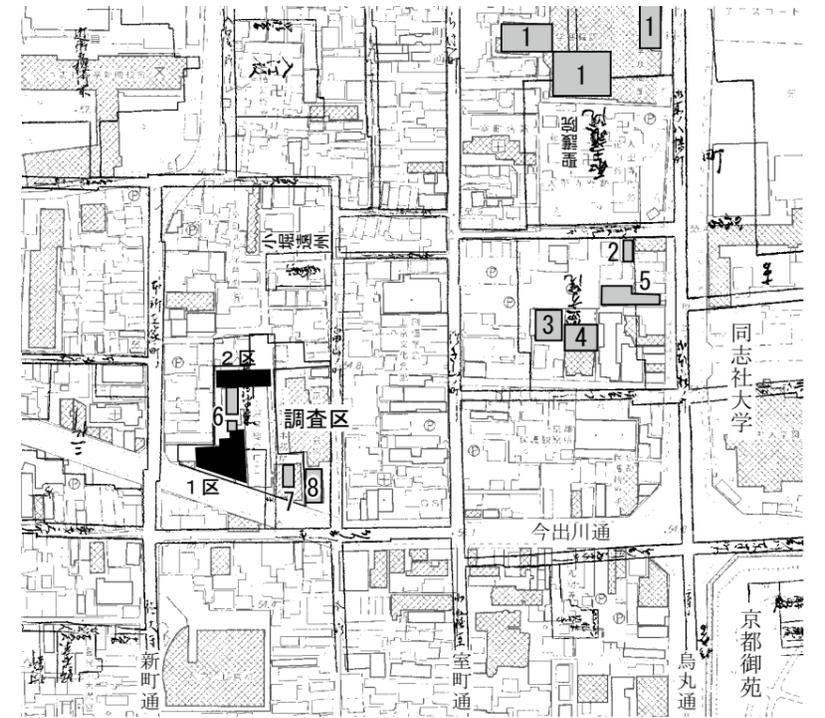


図2 中世の上京と下京



中井家旧蔵の『洛中絵図』(京都大学付属図書館蔵:1645~1659年頃)の一部を室町通で京都市都市計画図に重ねて調整。

図3 調査位置図 (1:4,000)

表1 周辺調査位置表

No.	調査地	調査機関・調査期間	主な調査成果	出土遺物	文献番号
1	御所八幡町103 室町殿跡(寒梅館地点)	同志社大学 2002.5.8 ~2003.1.20 (2002.03)	鎌倉時代後半の井戸、鎌倉~南北朝時代の東西溝、室町時代の石敷遺構・石組水路・柱穴列・建物基礎、江戸時代の土坑・鍛造遺構などを検出。	鎌倉時代の土器類、室町時代の土器類・陶磁器類、江戸時代の土器類・陶磁器類・埴輪・鋳型などが出土。	学生会館・寒梅館地点発掘調査報告書・同志社大学歴史資料館調査研究報告第4集 2005
2	御所八幡町110-5	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1986.9.25 ~10.11(1989)	室町時代と考えられる庭園の石組遺構・礎敷遺構・土坑・庭石などを検出。	室町時代後期の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類・瓦類・銭貨・土製品・石製品などが出土。	京都市埋蔵文化財調査概要 1989
3	岡松町254-1	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1985.7.30 ~7.31	室町時代と考えられる池の江・庭石などを検出。	室町時代後期の土器類・陶磁器類・瓦類、桃山時代後期~江戸時代の土器類・瓦類などが出土。	京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度(85BBRH18)
4	岡松町254-2他	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989.4.24 ~7.9	室町時代の石組遺構・溝・築山・景石、江戸時代前期の建物跡・石敷遺構・石組遺構・溝・土坑などを検出。	室町~桃山時代の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類、江戸時代の土器類・陶磁器類などが出土。	平成元年度京都市埋蔵文化財調査概要 1994
5	御所八幡町 鳥丸線No.79地点	京都市高速鉄道鳥丸線内遺跡調査会 1979.9.20~11.15	室町時代の土坑・落込み・池状遺構、江戸時代の井戸・土坑・ピット・落込みなどを検出。	室町~桃山時代の土器類・陶磁器類、江戸時代の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類(釉裏紅盤破片)・瓦類・金属製品・木製品などが出土。	京都市高速鉄道鳥丸線内遺跡調査年報Ⅲ 1982
6	幸在町689	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1979	鎌倉時代の井戸、室町時代の柱穴・土坑・溝などを検出	室町時代の土師器・陶器・磁器・瓦などが出土。	昭和54年度「京都市埋蔵文化財調査概要」2012
7	幸在町689	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1978	江戸時代の井戸・石室・土坑などを検出	桃山時代後期の瓦など、江戸時代の土師器・陶器・染付などが出土。	昭和53年度「京都市埋蔵文化財調査概要」2011
8	畠山町206他	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989	平安時代末期から鎌倉時代の土坑、室町時代の東西溝・土坑、江戸時代の土坑などを検出。	平安時代前期、平安時代後期~鎌倉時代、室町時代の土器類・瓦類が出土。	京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度(89BBRH18)

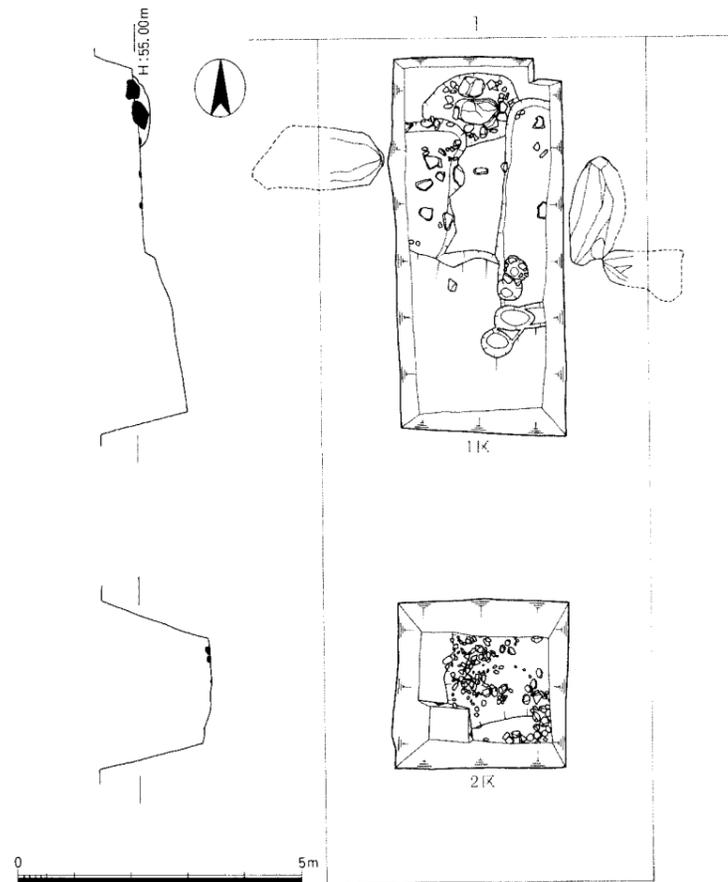


図4 調査2 遺構実測図

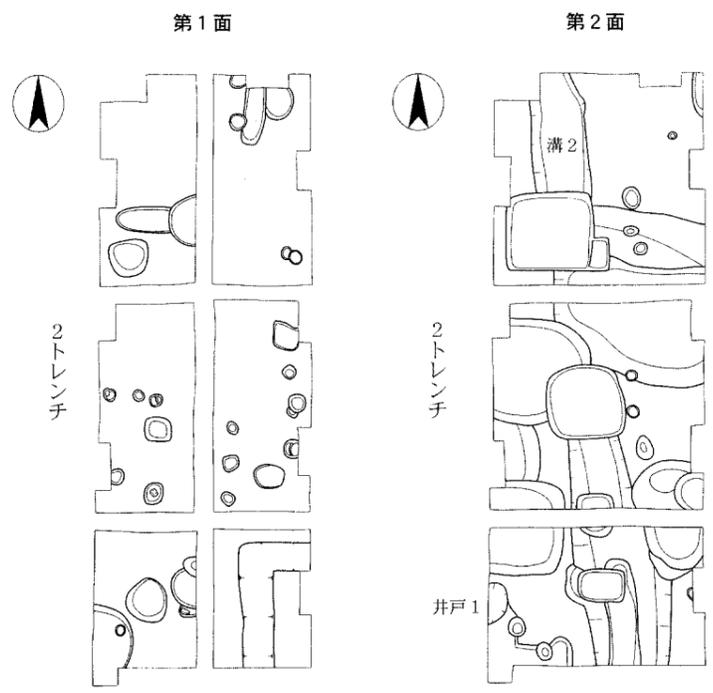


図8 調査6 遺構実測図

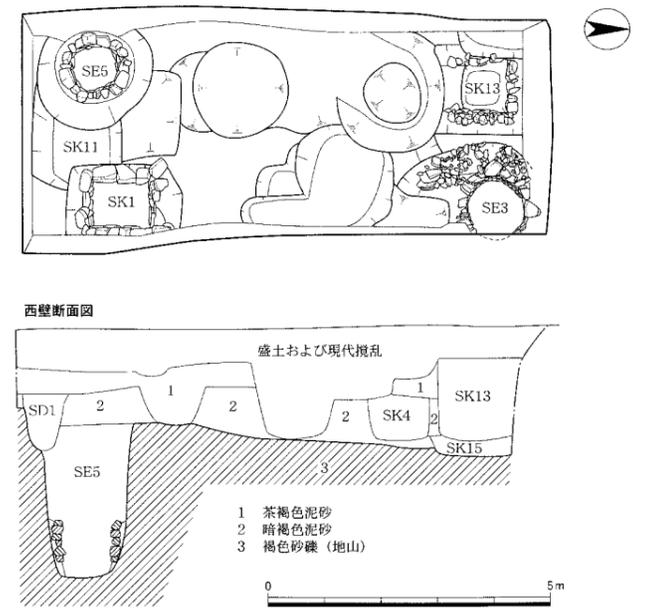


図9 調査7 遺構実測図

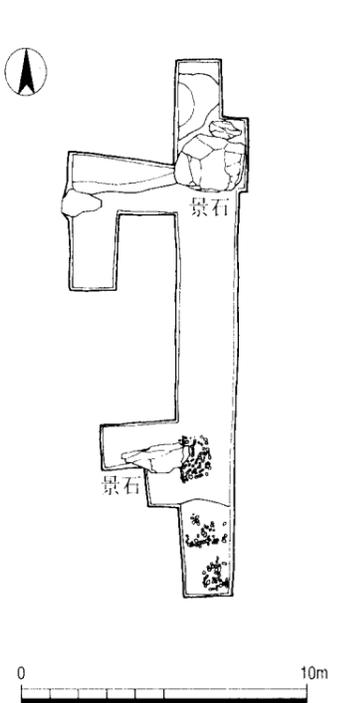


図5 調査3 遺構実測図

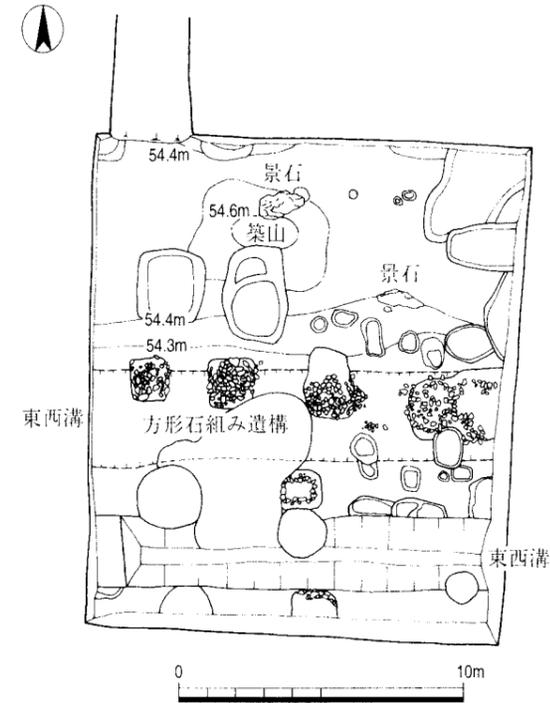


図6 調査4 遺構実測図

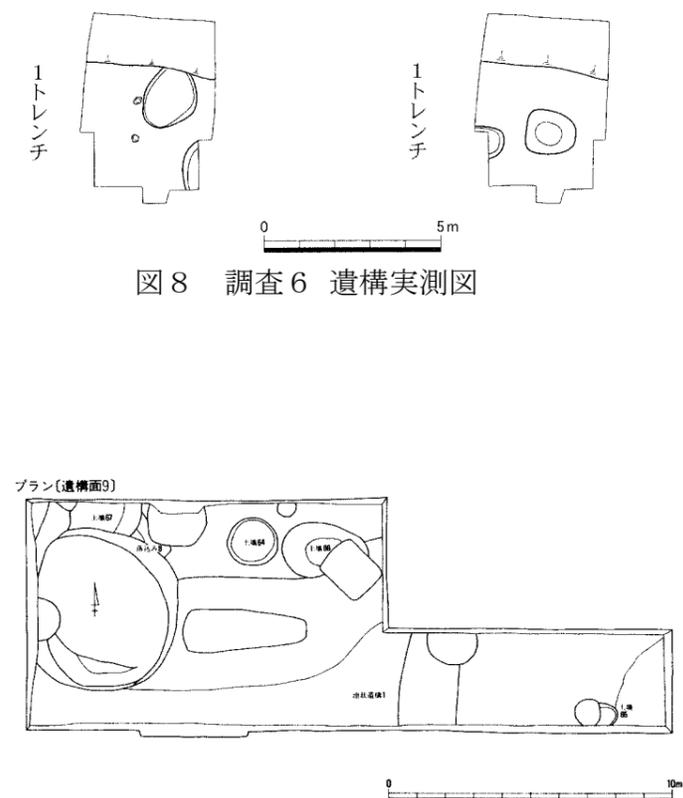


図7 調査5 遺構実測図

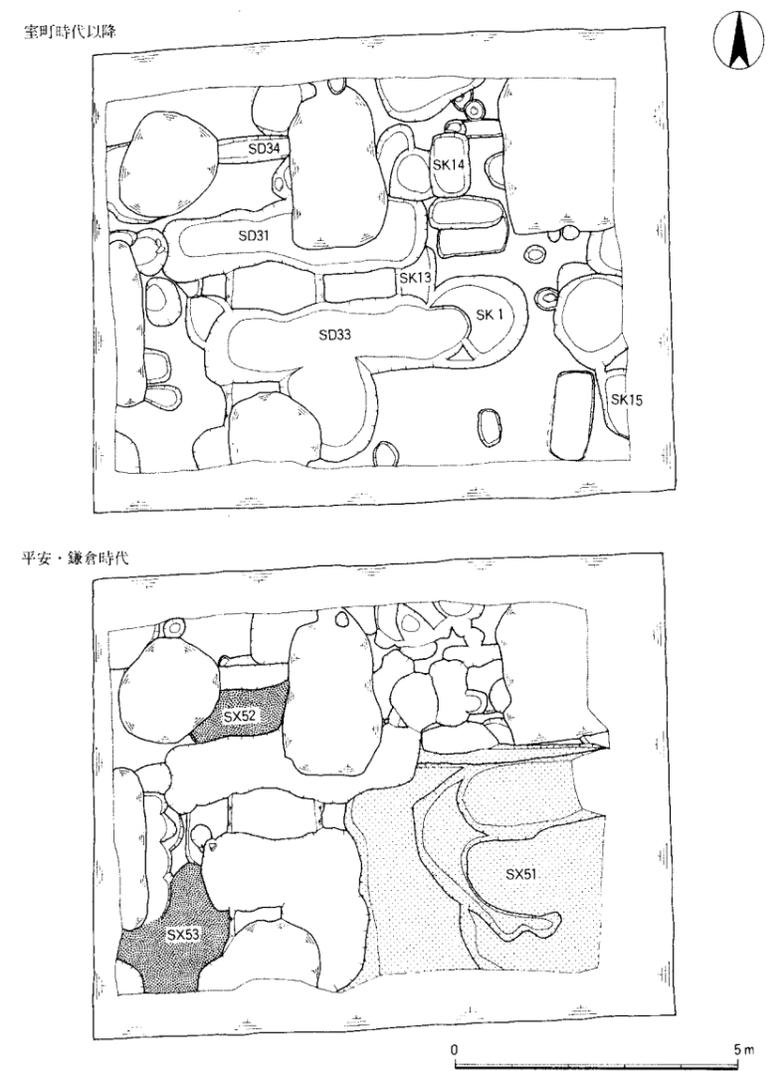


図10 調査8 遺構実測図

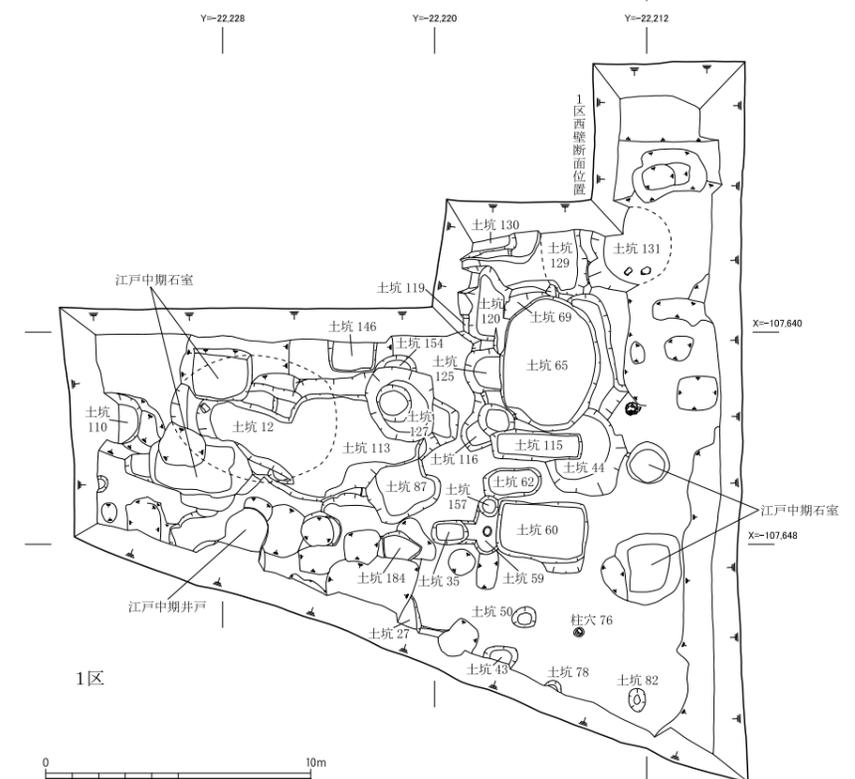
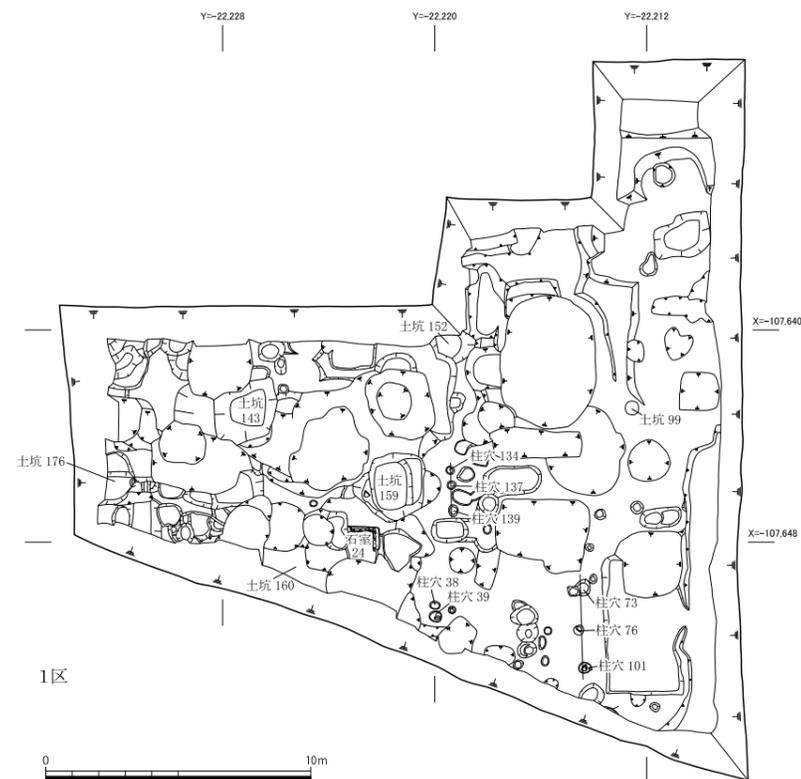
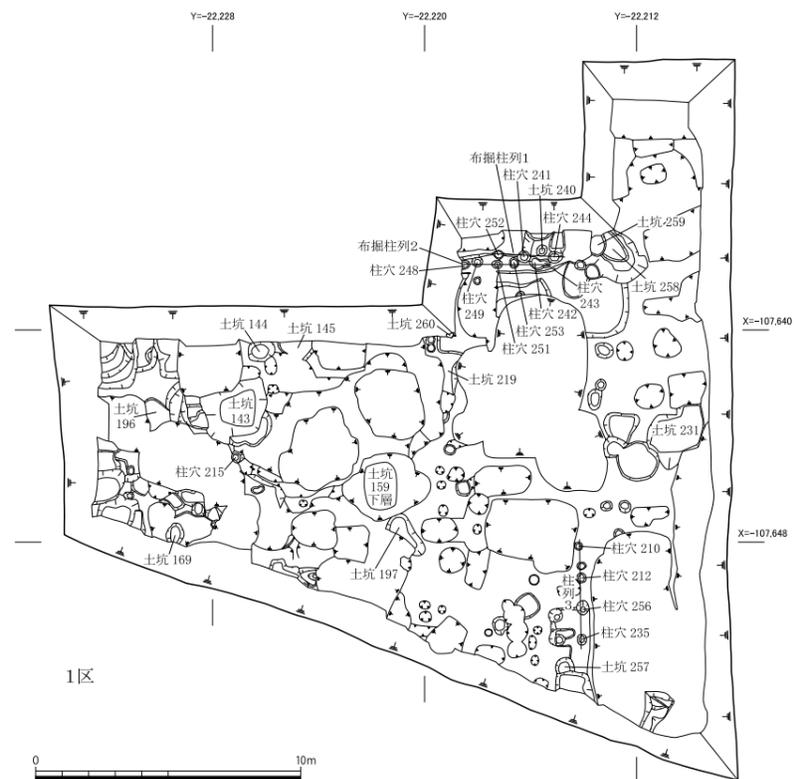
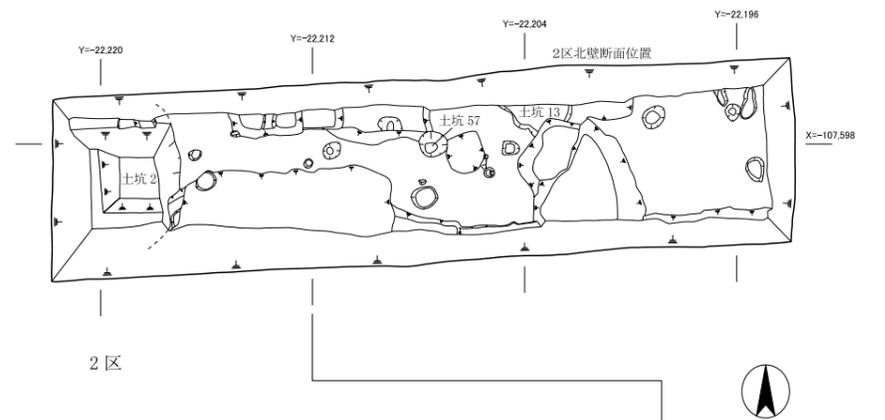
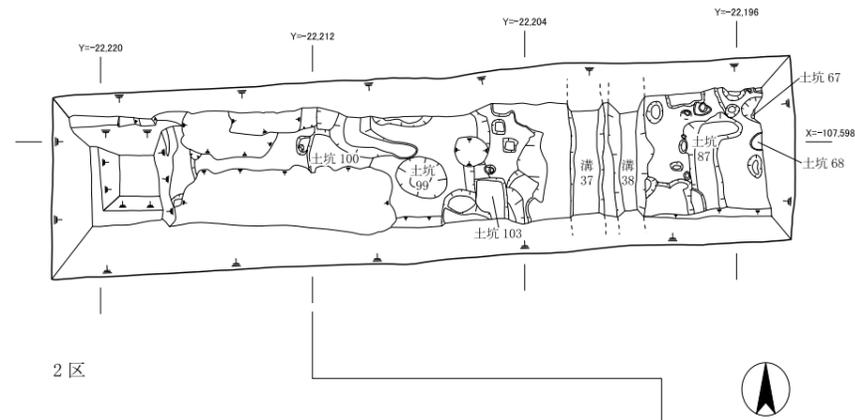
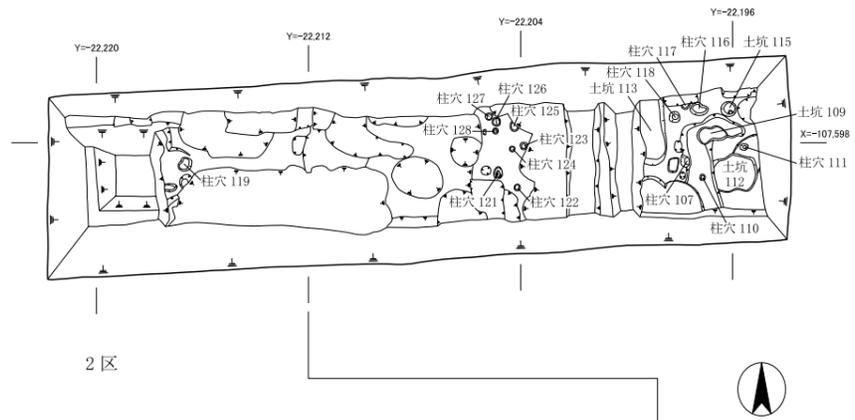


図11 第3面（鎌倉時代～室町時代前期）遺構実測図

図12 第2面（室町時代後期）遺構実測図

図13 第1面（江戸時代前期）遺構実測図



布掘り柱列1（南東から）



溝37・38（北から）



土坑65（東から）

相國寺  
及院  
親王  
院  
家  
殿  
役  
家  
殿  
役  
家  
殿  
役

風  
聲  
ヲ  
用

三月  
四日  
ノ  
大火

公家  
ノ  
家  
業  
ノ  
火  
災  
ノ  
事  
ト  
シ  
テ  
記  
ス

靈  
屋

〔阿邦郡邑記〕

名東郡 寺町 法華宗 富士大石寺 敬臺寺 寺領高貳百石

三十日、京都大火、相國寺災ニ罹ル、尋テ、放火頻々、延イテ三月下旬ニ及フ、

〔土御門泰重卿記〕 二月卅日、戊子晴、午下刻火事新町より焼上御所八幡廿四五町、一字不殘其外横町方々數町同禱禁中大事見侍畢以上町數四

十七町、家數二千餘家灰燼畢、古今兵火之外ニ、如此大燒不承及候、天災畏有畏事也、一條殿已ニ燒付程之事也、公家方一字無何事目出度也、  
三月大建一日、己卯晴珍重也、今日火付候由承畢、  
二日庚辰晴、今日火付申候由承及候、  
三日辛巳晴、今日火付申候由承候、  
四日壬午晴、午下刻燒跡忍テ歩行見物申候歸又火事之由申候、小川町十八九町、家數六七百家燒畢、申刻より亥刻まで燒申候付火之由申候、天下第一惟異不遇之候、町々家々用心、騷動兵亂もをとるへからず候、天下飢饉、いつきまをこり候はん、掌の中よてあるへく候、不如無好事、況惡事哉、

放火  
ノ  
事  
ト  
シ  
テ  
記  
ス  
ト  
信  
者  
ナリ  
ト  
信  
者  
ナリ  
ト  
信  
者  
ナリ

群衆  
ノ  
騷  
動  
ヲ  
記  
ス  
ト  
信  
者  
ナリ  
ト  
信  
者  
ナリ

五日癸未晴、今日も火付申候、  
六日甲申晴、今日も火付申候、  
七日乙酉晴、今日も火付候、  
十三日辛卯晴、今夜初夜過ニ下京火事、火見候、又鶏鳴之時分、二條通一字火事、騷動此中之事也、  
〔孝亮宿禰日次記〕 二月卅日、戊寅晴、自新町、京屋町出火、自未刻至日没燒止、參禁中忠利同參、召寄駕輿丁、令沙汰御風聲之事、自廣橋前内府、駕輿丁之事被示之、  
三月大一日、己卯晴、昨曉燒亡町數、新町、カンキ町、上長者町、常華、中立實一條、武者小路堀出町、今出河等云々、相國寺所々燒亡、聖護院殿昨日燒亡云々、家數二千八百軒計燒失云々、後聞二千八百軒者有家役分也、加其餘彼是五六千軒許燒亡云々、  
四日壬午晴、一條大嶺小路、自申刻許出火、入夜火消、千軒許燒失云々、寺町常慶有付火、然而即時打滅云々、  
五日癸未晴、中略、近江、所多等放火、燒亡ノコトニ、柳馬場町、押小路、眞元和六年二月三十日

三六七



図14 出土遺物1 (美濃・瀬戸1)

表2 貝・骨一覽表

遺構	貝類	魚類	鳥類	哺乳類
1区 SK60	アカニシ サザエ 不明	マダイ ブリ ハマチ 不明	ニワトリ コハクチョウ大 アオサギ大 不明	シカ
1区 SK115	アカニシ サザエ ハマグリ シジミ	マダイ サケ科	ニワトリ オナガガモ大 キジ	シカ
1区 SK120	アカニシ サザエ		ヒシクイ大	シカ
1区 SK184	アカニシ			
1区 SK65	アカニシ			
1区 SK125				不明
2区 整地41				イノシシ

〔日本耶蘇會年報〕

歐文材料第七號譯文  
一六二〇年十二月二十一日  
ニ・パツチヌスタボネリより、耶蘇會の總長ムタイオヴィテレスキに贈りし書翰、

一六二〇年の報告  
都のヤリシタンに對して新なる風吹き起さる、  
都に大火災起りて、多數の家屋を燒拂ひしが、其犯人は明ならず、惡人等の中には殉教者等の死に對して、キリシタン等が神を宥めんが爲め或は其復讐の爲めに、爲したる所なりと主張する者出たり、蓋し斯の如き復讐は日本に於て屢行はるゝ所なればなり、さればこれを信するもの多く、キリシタンを撲滅すべし、十字架に懸くべし、焚殺すべしと稱するに至りしが、或朝彼等一群は、執政及び町の有力者を訪ひて、放火犯人たる信徒を處罰せよと迫り、また、管にこの地の新信徒等を弾劾せしみに止らず、進んで長崎にある新信徒等を攻撃し、更にマカオより來れる日本人某に罪を歸し、彼がその資財をあげて、今回の事の決行をはかり、今もなほ都に滞留

三七七



图 15 出土遺物 2 (美濃・瀬戸 2)



图 16 出土遺物 3 (唐津・高取)

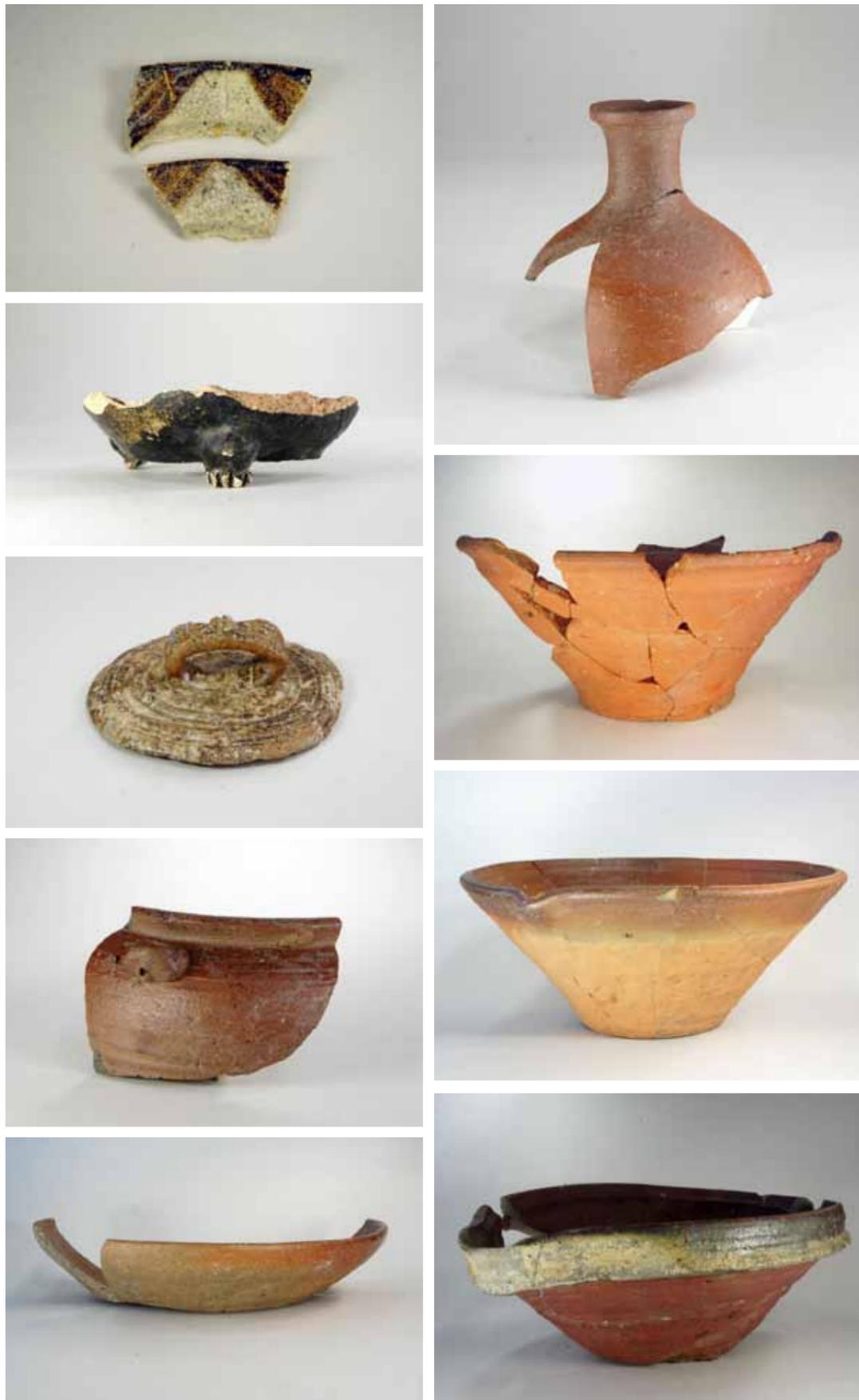


図 17 出土遺物 4 (その他の陶器)



図 18 出土遺物 5 (輸入磁器)